

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
1	桜ノ宮ビーチは、人が集っても密になりにくいので、コロナ禍においても工夫しながら、地域や企業と連携するなど、もっと上手にイベントを実施してはどうか。	江川委員	(その場での回答無し)	桜ノ宮ビーチでは、コロナ禍においても利用者が増えている状況ですが、更なる認知度向上のため、令和4年度には、同志社女子大学の協力を得て、区主催の「砂遊びイベント」を開催する予定です。 市内唯一の人工ビーチとして、引き続き、にぎわいづくりにつながる取組を進めていきます。	政策企画
2	公園には、木の根っこや石ころが多くつまずく人を多数見かける。区が主導し、公園を利用する者が参加型で維持管理を行えば、今より使いやすい公園にできるのではないかと。 また、(ソフト面としても)公園には規制が多く、魅力ある事業がしづらい。規制を緩和する方策を進めるといいのでは。	熊本委員 中口委員 山田委員	公園の規制については、地域住民の方全員の総意ということでご希望されるのであればかなうものもあります。 しかし、今すぐに規制が撤廃できるものではないので、引き続き関係局にはご意見としてお伝えさせていただきます。	(当日回答のとおり)	市民協働 防災地域活性
3	地域が管理する児童遊園については、剪定に係る費用のうち75%は補助金として大阪市が負担するが、残る25%は地域が負担することになる。地域には、「児童遊園の管理を大阪市に返しては」との声もある。	中口委員	児童遊園については地域で管理していただいていることから、地域活動協議会の事業の中の一環として、限られた予算の中で、剪定や補修を実施していただいている状況です。 負担の部分については、ご意見は重々分かりますが、引き続きこれまでと同様の対応でお願いしたいと考えています。	(当日回答のとおり)	市民協働 防災地域活性
4	高齢者の居場所づくりについて、再開を強く願っている利用者が多い。高齢者の方が気軽に、マスクしてでも実施できるイベントが再開できればと思う。	濱崎委員	区民まつりも2年ほど中止になっており、何とか皆様方の横のつながりが再開できる手法がないのか検討しています。 再開できるものは可能な限り再開していきたいと考えているので、その際にご支援やご協力をお願いしたいと考えています。	(当日回答のとおり)	市民協働
5	京橋では、依然として客引きが多い。また、汚いイメージを持っている子が多い。住んでいる子どもたちが将来憧れて、ここでずっと住みたいと思ってもらえるようなまちづくりを進めてほしい。	猪原委員	京橋の客引きが多いため、月2回の啓発に回らせていただいています。 引き続き実績を重ね、客引きを減らす取り組みを進めます。 また、京橋の来街者や乗降客の方たちが客引き行為に引っかからないようにしていくための取り組みも進めます。	(当日回答のとおり)	市民協働 防災地域活性

	意見内容	委員名	当日の回答	今後の対応	担当
6	区民まつりを大東の蕪村公園などで開催するのはどうか。そうすることで、他の地域のPRにもつながるのでは。 参加者アンケートも工夫し、得た意見を参考に、新しいことに取り組んでいくことが大事である。	山田委員 江川委員	開催地について、今まで3万人近いご来場がありました。今年度はまだコロナの中でどんな開催のやり方ができるのかも議論が必要です。 実行委員会で、地域代表の方や、様々な方に入ってください、開催手法の検討をしていただくこととなり、本日いただいた意見についても、区役所からお伝えをさせていただきます。 また、区民まつりの地域ごとの詳細なアンケートは、現在取れていないのが現状です。どこからどういった方々が来られているのかというところ分析することは重要であると認識しているので、今年度取り入れられるのかどうかも含めて、議論させていただきます。	(当日回答のとおり)	市民協働
7	魅力発信事業としてのYouTubeについて、登録者数を増やしたいのか、ビュー数を増やしたいのかによって、訴求する部分が異なる。 地域側が区とコラボして発信するのはどうか。 地域のお店を紹介すると、行政上の問題も出てくる可能性もあるが、子どもたちに魅力を広めるため、住みます芸人を活用し、区内の有名企業を紹介するのはどうか。 また、バーチャル大阪（メタバース）を利用して都島区の魅力を発信してはどうか。	江川委員 早光委員 熊本委員	(その場での回答無し)	都島区YouTubeチャンネルは、動画でしか伝えられない情報や魅力を発信する目的で開設しました。 一人でも多くの方に閲覧されるよう、住みます芸人の活用など、工夫しながらコンテンツ制作を進めていきます。	政策企画
8	都島神社や鶴塚などがOsaka Metroの広報誌において散歩コースとして取り上げられている。このような情報を広報誌に落とし込み、発信していくと面白いのでは。 また、各地域の新と旧の風景を広報誌や動画で紹介するなど、発信方法を工夫すれば、それが魅力の1つの資源となっていくのでは。	中口委員 山田委員	(その場での回答無し)	いただいたご意見を踏まえ、史跡などの区の魅力資源について、より興味を持っていただけるような内容の工夫や、SNSや動画等を積極的に活用するなどの発信方法を検討してまいります。 また、「とっきー」につきましては、区民のみならず広く親しまれるよう、広報誌等に加え、YouTube動画内でも登場しています。引き続き、幅広い方に知っていただけるよう取組を進めていきます。	政策企画
9	区役所の広報誌は、自分から取りに行かないといけない広報ばかりであるので、SNS等も活用しつつ、発行側から仕掛けていく内容を掲載したり住民参加型の広報誌をめざすのはどうか。 例えば、都島区の特徴である与謝蕪村にちなみ、俳句甲子園などのような一般の方や学生が募集できる俳句コンテストを実施し、広報誌で紹介するのはどうか。 また、広報キャラクター「とっきー」について、子どもたちにももっと親しまれるよう、見てもらう工夫をすべき。	猪原委員 濱崎委員	(その場での回答無し)		政策企画